

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390900086		
法人名	有限会社ウェルネス・プランニング		
事業所名	グループホームウェルネス津川		
所在地	高梁市津川町今津1826-1		
自己評価作成日	平成29年1月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/33/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyouvoCd=3390900086-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成29年1月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お一人お一人の思いに寄り添い、ご家族・地域との関わりを保ちながらその人らしく暮らし続けられるよう支援しています。
 職員一同「笑顔」を大切に毎日過ごしています。地域の方・ご家族との関係も大切にしたいと考え、行事への参加時に食事作りなどでお手伝いいただき、職員・ボランティアとの交流の場となるよう働きかけています。
 今年度は当社の他事業所ウェルネス東城との交流が実現し、職員同士お互いを助け合える関係作りの第一歩となりました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に「地域と連携し、地域貢献に努め、信頼できるホームを目指す」を掲げ、認知症サポーター養成講座や認知症カフェを開催し、地域との連携を図っている。認知症サポーター養成講座では、日常の様子を撮影したスライドを映写している。事業所の様子を知った小学生から、「訪れるのが楽しみ。将来はウェルネス津川で働きたい」と書かれた年賀状が届いた。開設から5年間、無我夢中で頑張った支援が、児童にも認められたことに喜びを感じた出来事である。
 今年度から、同一法人のグループホームとの交流を深める取り組みを行っている。行事に共に参加する事で、色々と相談が出来、良い点を参考にしている。今後は運営推進会議にも出席し、意見交換を行いたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関ホールや事務所に理念を掲げ、朝礼時に唱和を行っている。実践につなげていける様日々意見交換をしたり会議等で話し合っている。	理念に「安全で安心して暮らせる生活を支援します」を掲げている。来訪者には必ずうがいと手洗いを徹底し、各ユニットに入る時も靴底を消毒し、感染対策に努めている。また、利用者の様子をこまめに伝え、安心へとつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催しに積極的に参加したり、ホームでの避難訓練、行事等に地域の方々に参加していただくなど交流を図っている	小学生に、キャラバンメイト養成講座を実施した後、訪れてもらい利用者と一緒に昔遊びや歌を楽しんでいる。訪問した児童が中学生になって再来する機会があり、心待ちにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターを中心に地域の方々や小学生に認知症についての理解を深めていただけるよう福祉の勉強会を開いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度の運営推進会議を通してホームの活動状況を報告し理解していただいている。委員の方々には敬老会等の催しに参加していただき意見を聞きサービスの向上に活かしている	運営推進会議の参加者は協力的で、行事等は率先して手伝ってくれたり、参加してくれたりする。支援に繋がる情報収集を心掛けてくれていて、動物の癒しは効果があると知れば、会議の際に飼い犬を連れて来てくれた。	新しい意見を聞く機会として、家族が参加する行事と同日に実施する等の工夫を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき情報交換している。行政に出向き違憲や助言をいただいている。	運営推進会議で年間スケジュールを伝え、行事の協力を依頼し、援助してもらっている。夏祭りを開催するにあたり、食品衛生講習会を実施する為の橋渡しをしてもらった。基礎から学ぶ機会となり、大変参考になった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設け身体拘束をしないケアの理解と実践についてホーム内で勉強会を開いたりホーム外での研修会や講習会に参加し廃止に向け取り組んでいる	身体拘束委員会を立上げ、身体拘束をしないケアの実践に努めている。利用者が自宅へ帰ろうとした時は、一緒に寄り添い外に出て気分転換を図っている。行政に依頼し、勉強会の計画を立てている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を設置し、虐待について常に考え危険性を理解し、職員間で声をかけあい防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に入居されていた方が後見人制度を利用されていたことがある。職員全員が共有はできていないが、管理者はユニットリーダーと相談し、必要性について情報を共有している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約または改定時には利用者や家族の不安や疑問に対し十分な説明を行い理解していただけるよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ホールに意見箱を置いたりご家族の訪問時または月一回以上様子をお知らせの際要望等を直接聞き対応している	家族への連絡を増やし、信頼関係を築く努力をしている。その結果、家族から何でも言ってもらえる関係が出来てきている。行事の食事を家族に手伝ってもらう事で家族同士の会話が弾み、悩みを打ち明けられる場もなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や個人面談で意見を聞いたり日常のコミュニケーションの中で出た意見を集約しリーダー会議で報告している	職員の提案は出来る限り反映させている。例えば「利用者と一緒にプリクラを撮りたい」「化粧品をあげたい」「花を見に連れて行きたい」等、実行している。職員は提案を聞き入れてくれるので、やりがいを感じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の昇給、年2回賞与支給。希望休が取れる。資格取得を推奨し、受講・受験できるよう勤務調整している。子育て世代の職員が増えた為就労について個々に調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	適任者に認知症実践者研修、管理者研修の受講をしてもらう。自施設内での接遇研修(年4回)、おむつ講習を実施し個々のスキルアップに生かしてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多職種及び介護支援専門員の交流会、キャラバンメイト連絡会、認知症カフェ実践報告会への参加を通し同業者との交流を図り、職員間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の不安に思っている事や困っておられることで要望等をお聞きし、安心して生活できるように支援を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意向や要望をお聞きし、支援を行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望、意向をお聞きし、より安心に生活できるよう支援を行っていき、いろいろな面のサービスの対応を行っていく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と一緒に生活をし安心して暮らしていける様支援を行っていく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、家族との信頼関係のもと支援を行っていく		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで本人が大切にしてこれた方への関係が続けていけるように支援を行っていく	家族が訪問を遠慮する事が無いよう、「いつでも来て下さい」と声掛けをしている。それは面会の多さにも繋がっている。事業所は馴染みの人に来てもらうばかりでなく、自宅やお墓にも出向くようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士色々なことで関わりを持ちながら安心してできる様支援を行っていく		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居してからの関係も大切にして、必要に応じてサービスを提供し経過観察しながら相談し支援している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ利用者一人一人と関わるようにし、暮らし方の希望や意向を把握するように努めている	「ひもときシート」を活用し、担当職員が利用者の思いに寄り添い、その人らしい生活の支援に努めている。職員はシートを基に、話し合いを重ねて意向の把握を心掛けている。意見箱に「帰りたいけど歩いて帰れない」と書かれた紙が入っていた。それを読んだ職員は利用者の心中を察し、さりげなくドライブに誘い気分転換を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の本人のアセスメントを行い生活歴やこれまでのサービス利用の経過等も把握するように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の一日の過ごし方や心身状態を把握し、職員同士の情報の共有を図るように努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の関わり合いの中で本人がよりよく生活していただくために担当者会議を行い、それぞれの意見やアイデアを反映し現状に即した介護計画を作成している	サービス提供内容を個人記録ファイルの目につく場所へ貼り、職員への周知を図っている。毎月モニタリングを実施し、難しい課題は実行するための工夫を考え、いつも出来ている目標は、違う課題を見つけるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子やケアの実践結果を個別記録に記入し、充実を図り職員間で共有し介護計画に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況やその時々生まれるニーズに対して本人や家族の希望を踏まえ柔軟な支援を行っている。状態や意向が変化した時でもできる限りのサービスをする		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	美容院、スーパー等、本人や家族の意向を基に行っている。今後も支援が行えるようにしていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣の往診医との連携により速やかな対応ができるようにしている。引き続きかかりつけ医への受診を希望されるご家族には継続して受診を行っていく	馴染みのかかりつけ医の継続支援をしている。待ち時間が長時間となり、利用者が負担を感じている場合は、近隣に在る協力医を紹介している。先日も利用者が体調不良になり、家族と相談した結果協力医に往診してもらった。利用者も先生を大変気に入って、かかりつけ医を協力医に変更する場面もあった。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診前に状態の変化や相談したいことについてまとめ、指示、助言等共有できるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の医師、看護師、ケアワーカーと随時確認を行いながら退院までの流れを作れるようにしている。入院期間中も可能な限り面会に行くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に今後どのような形を望んでいるのかを確認したうえで、重度化、看取りに関する指針について説明し方向性を共有できるようにしている	家族や利用者の意向を踏まえ、医師、職員が連携を図り、安心して納得した最期を迎えられるように、取り組んでいる。看取り経験が少ない職員の為には、管理者は「こうしたら大丈夫よ」「何かあったら来るからね」と不安を取り除けるようにサポートしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員同士での申し送り等の連携はできているが、今後も継続して学んでいきたい。全職員が落ち着いて対応できるようにしていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回おこなっている。市民センター、地域の方との協力体制を築いている。	去年水害が多かった為、水害時の避難訓練を実施しようと考え、市民センターへ相談に行った。センター長が主体となり、行政、民生委員、愛育委員、そして消防分団員が参加してくれ、課題が見つかり、アドバイスももらった。	障害者施設で発生した殺傷事件をきっかけに、行政指導の下防犯訓練を実施したいと考えている。実現に期待を寄せる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る時は声かけやドアの開閉等、プライバシーを損ねないよう心掛けている。トイレや入浴時も気をつけている。	管理者は、職員の言葉遣い、声の掛け方等、気になる時はその都度注意をしている。マナー講座でも、再度指導してもらっている。研修時に、職員自身のケアを録画し、適切な対応が出来ているかどうかを見直す機会を得た。参加した職員に会議で報告をしてもらい、意識改革を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意見をよく聞き、出来ることを支援させていた		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	調子の悪い時等無理をせず様子を見て過ごして頂いている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床されてから、髭剃りや髪を整えられる。その日着る服の用意を利用者と一緒に確認しながら整える支援を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に合わせて食事の準備を手伝っていただいたり、片づけをしていただいている。食事の時も食べやすいよう配膳など工夫をしている。	昼食と夕食は、冷蔵庫に保存された食材を見ながら、利用者と相談しメニューを決めている。利用者に好物を聞き、家族からも何が好きだったかを確認している。酒好きの利用者には、昼食と一緒にノンアルコールビールを提供し、食欲増進につなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食食事量や水分量を確認している。利用者の状態に合わせて食事の摂取の工夫をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。歯ブラシやコップなども定期的に消毒を行い、清潔を保持できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄への声かけなど時間的なことを見て誘導している	職員から「排泄中の困り事を後で知るよりも、見守りたい」との意見が出て、トイレ内で手助けをしている。利用者も職員に見守られる事で安心して排泄が出来、自ら「トイレに行きたい」と声を掛けてくれる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	身体を動かし、散歩やホール内の歩行をしている。10時にヨーグルトの提供をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夏場はジャワー浴、その他は湯船につかっていただく。週2回は入浴日としている。入浴拒否がある方はトイレ誘導時にお風呂にお誘いしている。	今回入浴リフトの講習を実施してもらい、職員も自らリフトに乗り、リフト使用の自信が持てるようになった。入浴リフトを活用し、身体機能が低下した利用者も湯船に浸かる事が出来、寛いでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中できるだけホールで過ごしたり、活動してもらったりする。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認を必ず行う		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お酒好きな人に昼食時ノンアルコールビールを提供している。食器を洗ったり、拭いたりドライブに行く		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	順番に利用者とドライブに行く。散歩に出かける。家族と受診をする方は買い物などもかねて外出されている。	天気の良い日は事業所周辺を散歩したり、東屋でお茶をしたりしている。職員は、桜、ひまわり、そしてコスモス等が咲いたと聞けば、ドライブを兼ねて利用者を連れ出している。毛染めやパーマを希望すれば、近隣の美容院にも出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理することが難しいため事務所内で小口としておこずかいを預かっている。外出時本人が希望され買い物することがある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて職員が電話をかけ本人が話をされている。クイズの応募はがきの手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広々としてる。温度湿度にも気を付け調整している。季節の花も玄関や洗面台におき楽しめるようにしている。	職員は、「利用者が笑顔になれる事をしたい」と常に思っている。その思いを目標に掲げ、「笑顔から良い事がある」の文字と模様を利用者と一緒に作成し、玄関に飾っている。家族が訪れた時は、「この箇所は私が作ったの」と嬉しそうに報告している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で座っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を使用することでの利点をご家族に理解していただき、なじみ深いものを家から持ってきてもらっている。	利用者が、覚書きや日記を書いたり、作業をしたりする為に机が欲しいと言われた時は、家族に持って来てもらっている。近頃は、新しい洋服を自分の物と認識しづらくなっている為、ずっと身に付けていた愛着のある洋服を持ち込んでもらっている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できること、わかること」の把握に努め、状態の把握に合わせ、家具、ポータブルトイレの配置を変えたり何かわかるように張り紙をしたり環境整備に努めている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390900086		
法人名	有限会社ウェルネス・プランニング		
事業所名	グループホームウェルネス津川		
所在地	高梁市津川町今津1826-1		
自己評価作成日	平成29年1月10日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お一人お一人の思いに寄り添い、ご家族・地域との関わりを保ちながらその人らしく暮らし続けられるよう支援しています。
 職員一同「笑顔」を大切に毎日を過ごしています。地域の方・ご家族との関係も大切にしたいと考え、行事への参加時に食事作りなどでお手伝いいただき、職員・ボランティアとの交流の場となるよう働きかけています。
 今年度は当社の他事業所ウェルネス東城との交流が実現し、職員同士お互いを助け合える関係作りの第一歩となりました。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/33/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JiyouvoCd=3390900086-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成29年1月23日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼で唱和している。 月一回のリーダー会議、ユニット会議において入居者の思いの共有をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	津川小学校、東中学校との交流 認知症カフェの事業所内での開催 餅つきや行事等での訪問を行っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月一回の認知症カフェ開催 認知症サポーター養成講座の開催を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ヒヤリハット報告、日々の様子の報告、行事、研修報告を行い、意見交換をしている 運営推進委員のメンバー固定してしまっているが、同事業所への声かけや家族へ向けての参加の声かけをしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話やメールで連絡は密にとっている 運推での情報共有、キャラバンメイトでの活動協力、相談員の訪問、災害時対策での協力等を行っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会において禁止行為について理解し、ユニット会議にて共有している 言葉づかい、声のかけ方、薬の服用について、気になる点はその都度注意を行いユニット会議にて相談している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会において勉強会を行っている 入居者の方を理解し対応方法を統一することで安心、安全に生活できるようにしている 気になる点については管理者に相談できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に入居者の方が後見人制度を利用されたケースがある。職員全体での共有はできていないが、管理者はユニットのリーダーと相談し必要性について情報共有している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族会を行い、その中で説明・理解を図っている。面会時にはその都度質問に答えられるようにしている。その他にもいつでも電話等で問い合わせができる様説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。日頃の様子について面会時だけでなく、電話でも伝えご家族の思いを聞いている。家族の思いは会議等にて報告し、ケアプランに反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のリーダー会議にて、ユニット会議で出た意見・要望について報告、共有している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の昇給、年2回賞与支給。希望休が取れる。資格取得を推奨し、受講・受験できるよう勤務調整している。子育て世代の職員が増えた為就労について個々に調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	適任者に認知症実践者研修、管理者研修の受講を勧めている。自施設内での接遇研修(年4回)、おむつ講習を実施し個々のスキルアップに生かしてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多職種及び介護支援専門員の交流会、キャラバンメイト連絡会、認知症カフェ実践報告会への参加を通し同業者との交流を図り、職員間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話しやすい雰囲気作りをし安心感を与える		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	信頼感を与え、話しやすい雰囲気を作り、聞き上手になる		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関連付けをして支援内容を考える		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることはしてもらう。職員のみだけでなく本人にも協力してもらい、楽にできるようにする		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に声かけし、自然に本人との関わられるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人など来やすい雰囲気を作り、関係が途切れないよう努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	不穏になって孤立しないよう、職員がクッションになり互いが安心できる場を作る		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている 特養へ移られた方の面会へ行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意見に添える様に運動レク等を実施している ご家族とこれまでの暮らしぶりについて話を聞かせてもらっている。居室へ自由にものを持ち込めるよう説明を行っている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のほかに家族からも生活歴を把握するよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録の作成、アセスメントシートの作成を行っている。日々バイタルチェックを行い、それぞれのケアプランに沿ってケアを行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した介護計画をしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録することの大切さを職員に認識させる		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全に暮らせるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を大切に支援している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づいたことを管理者に報告し、受診できる様支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護職が同行し、情報交換をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	近くのかかりつけ医が主治医の場合は早くから担当者会議を開き、主治医から説明してもらっている。24時間対応で何かあれば往診が可能ないようにしている。状況に応じて何度も話し合い対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの講習を受け、勉強いつでも使える様身につけている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練、防災訓練を地域の人たちと行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した声かけをするよう心掛けている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の気持ちに添うよう心掛け、声かけにも努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を聞き、やりたいこと、やりたくないことを伺うようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ちぐはぐにならないように気が付いたときは声かけし着替えてもらう 本人の希望も聞いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、食器ふきや洗い上げなど見守りながらしてもらう		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量が少ない人、残りがちな人には声かけし飲んでもらう。食事も状況により声かけしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	座ってできるようにしたり、入れ歯の洗浄を状況に応じてしている。歯みがきの介助もする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を確認しながらタイミングを見てトイレに誘う		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日の水分量1300mlを目標に水分バランスを考慮している。10時にはヨーグルト、オリゴ糖を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や入浴時間は決まっているが、一人一人の好みに応じて石鹸やボディソープを使い分けている。湯船に入れるようリフト使用も行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない方にはホールでお茶を飲みながら過ごしてもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時名前の確認 飲み終わっているかの確認をする 個人記録に薬の情報を入れている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所の手伝い、ホールでの野菜の下ごしらえ、食器洗い、畑の収穫、ビールの提供など行っている。昨年末には餅つきをした。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	美容院への外出支援 温泉にいったり、季節に合わせて花を見に行く等している 年に一回のバス遠足では家族、地域の方々とでかけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理することは難しいため事務所内で小口としておせ小遣いを預かっている 外出時等本人が希望されおやつを購入することがある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はでのやりとりはできるよう支援している。どのような内容だったか家族の方に尋ねるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫している 季節ごとのちぎり絵、塗り絵などを作ってもらいホールの壁に飾る		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人1人決まった席がありいつも定位置に座っていただく。椅子を移動させ別のテーブルで過ごすこともできる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	鏡台やテーブル等それぞれ思い思いに居室が利用できるよう説明している。写真ははったり自分で作ったものを飾ったりしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員が必ず声かけ、見守りを行い、一人でできる様に寄り添っている		